

ちば里山新聞

(第7号)

編集 発行 ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

第3回里山フェスティバルを開催

6つの里山
6つの発見

5月18日は「里山の日」。美しい千葉県の里山を守り、育てましょう。

新緑が美しい5月は「里山月間」です。この期間中に、県内各地で植樹や自然環境などを行う「里山体験」や「里山に託す私たちの未来」をテーマにした「里山シンポジウム」を千葉県及び(社)千葉県緑化推進委員会と共催して開催します。

番号	コース名	日時	集合場所	送迎バス集合時間	定員
1	都市の雑木林で丸々一日里山体験コース(市川市)	5月13日(土) 10時～15時	JR市川大野駅改札口	9時15分	80人
2	竹の文化と養老溪谷里山作り体験コース(大多喜町)	5月14日(日) 10時～15時	NTT東日本千葉支店前 (JR千葉駅から徒歩5分)	8時	40人
3	東京湾を望む桜と棚田の山で自然体験コース(君津市)	5月20日(土) 10時～15時	NTT東日本千葉支店前	8時	40人
4	文化の里山で森の手入れと歴史探訪コース(匝瑳市)と里山フォーラム	5月21日(日) 10時～15時	NTT東日本千葉支店前	8時	40人
5	白砂青松の九十九里浜の津波の歴史と植樹コース(一宮町)	5月27日(土) 10時～15時	NTT東日本千葉支店前	8時	40人
6	南房総の伝説の里山で自然観察と桜の森づくりコース(南房総市)	5月28日(日) 10時～15時	NTT東日本千葉支店前	7時30分	40人



申込方法 往復はがきにコース名、参加者全員(1通につき4人まで)の住所、氏名、年齢、電話番号、送迎バス利用の有無、返信用あて先を書いて郵送

締め切り 4月24日(月) 消印有効

申込み先 ちば里山センター

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL: 0438-62-8895

E-Mail: info@chiba-satoyama.net

同時開催 「里山シンポジウム」 テーマ 里山に託す私たちの未来 ～里山とごみ～

開催場所 八千代市市民会館

(東葉高速鉄道八千代中央駅から徒歩10分)

日時 平成18年5月20日(土) 午後1時から午後5時まで

内容 基調講演 「里山を活かす上勝町の戦略ー彩り産業とゴミ作戦」

徳島県上勝町役場参事 星場 真人

パネルディスカッション「里山に託す私達の未来：里山とゴミ」

パネリスト 大槻 幸一郎(千葉県 副知事)、林 秀一(市原市古敷谷在住)、

井村 弘子(残土・産廃問題ネットワーク・ちば 副会長)、

星場 真人(徳島県上勝町役場 参事)

プレゼン&コーディネーター

藤原 寿和(廃棄物処分場問題全国ネットワーク 事務局員)

主催 里山シンポジウム実行委員会

ちば里山センター、千葉県、(社)千葉県緑化推進委員会

問合せ先 里山シンポジウム実行委員会事務局 TEL 03(3824)6071

ホームページアドレス <http://www.jgoose.jp/satochiba/>

ちば里山センターの会員である3氏に、 里山活動にかける思いを語っていただきました

私たちが里山活動を通して目指すもの

酒々井里山づくりフォーラム 遠藤博之

酒々井町の基本計画で掲げている町の将来像は「人と自然と文化が奏でる幸せハーモニー」であります。

「里山1日活動体験」の開催を当地で引受ることになり、これを機会に当会と行政が協力して町内の里山活動の活性化を図るきっかけにしたいと考えました。

イベントの企画にあたっては当会のみならず町役場職員をはじめ町内で里山活動に関心のある人々によるワークショップ「ネイチャーミーティング」（仮称）を設定して、「里山1日活動体験」の企画作業を活動の一過程と位置づけた取り組みを試みました。

はじめに取組んだのは今回のテーマである町の将来像「人と自然と文化が奏でる幸せハーモニー」の意味の本質を探ることから初めました。先ずここに云う「自然とは？」と云う課題について参加者の抱いている考えをまとめた結果、自然に関する課題は大きくわけて、「自然の景観」でありもう一つは「自然環境」でありました。

つぎに「自然に関わる文化との関係」については川喜多二郎著の「組織論」の中で述べられている人その他の生物と人間だけが持つ文化についての理解でありました。

即ち、人間以外の生物は環境の変化を自分の身体で直接受けていること、また環境の変化に進化などによる対応ができなかった生物はこの地球から消滅する運命にあること。

それに対し人間は文化を持つ社会の中で生活しており、文化は人間自身が創造する生活様式のことであり、その文化と言う生活様式が環境に強く影響をおよぼしているということを知り、町の将来像「人と自然と文化が奏でる幸せハーモニー」が地球人類にとっての究極的な課題であることを改めて認識いたしました。

今回の「里山1日活動体験」の開催地、酒々井字西井戸の地は本佐倉城跡から見下ろす印旛沼に注ぐ水路の奥に位置する谷津田とそれを縁取る傾斜林にあります。何処にでもある谷津田の風景ですが、酒々井町には史跡や遺跡が町中に残され、この西井戸も多くの史跡や遺跡に囲まれています、また酒々井は利根川と印旛沼の変遷と何回となく塗り替えられた文化の移り替りによる環境の変化に影響を

酒々井里山づくりフォーラム



3/5実施した1日活動体験の参加者

受けてきた姿があり、私達の生活と自然との接点である里山との関わり方次第で将来、自然の景観や環境は活かされもすれば消滅することもあると云うことを改めて認識しました。

酒々井町の都市計画マスタープランの構想の中には、町を取り巻く「緑のリンク」という構想があり、この計画では西井戸の里山活動地も本佐倉城跡から連なる緑地帯の一つとして町の緑保全地域であります。

「緑のリンク構想」を町の将来像「人と自然と文化が奏でる幸せハーモニー」の基本となる構想であることに大きな希望を持ち、町民と行政のパートナーシップに基づく「里山活動」を広く普及していくことが里山活動団体としてのミッション（使命）であることを「里山1日体験」の参加者ならびにスタッフの皆さんと共有していきたいと願うものであります。

教育の森は楽しいところ

NPO法人水と森と人とIN神崎 木内 兵太郎

（里山条例と教育の森）

今日も森の中から大きな叫び声、目を輝かせ飛び回っている子供達、蝶が舞う足元で蛾の幼虫もゴロン、ゴロン動き、蜂も蛇も百合の花も栗もグミも、うさぎのフンもある中しっかり自然観察をし、木登り秘密の基地作りを楽しんでいる。

夏には短冊に願いを、秋から冬にはやきいもを食べながらたき火をし、炭焼きの煙を吸い心地よい疲れの中元気に帰っていきます。

小学生の自然環境教育、総合学習の中で、自然の成り立ち、人と人との協力、同調する基礎を学び、たくましく情緒豊かな子となり、心のうちにも木を植え成長させることが生きる教育につながる。

初年度4年生の生徒も本年4月より6年生、どんぐりから育てた苗木も成長、卒業時にミニ植樹祭を予定、毎年継続すると竹で荒廃した里山も美しい混交林となる予定である。

里山再生プロジェクト（全国植樹祭事業）の体験から条例の三者にさらに町教育委員会、小学校を加え四者連携が教育の森の活動を円滑にしています。

子供達より感想文をいただきました。

身近なことに皆何かを感じ始めてます。

森で興味を示し、疑問を持ち、考え、行動し本物を見極めこの森から大きくはばたき、時には育てた枝に翼を安めに戻ってほしい。

改めて山林所有者に感謝します

（里山で健康づくり）

里山新聞4号で総谷さんが科学的な実証のもと里山とかかわり、里山で楽しみながら心身とも健康になってほしいと述べている。

国においても森林浴がリラクセス効果、免疫細胞の増加、たんぱく質増と立証され「お薦めの森」認定されている。

これらの森は森の規模が大きく樹木も豊かであり、散策道保養設備完備である。

当法人でも小規模であるが健常者障害者問わず県民を対象とした県との共同事業を4月より施工地内にて「唾液によるストレス指数検査」「心理テストPOMS」のデータ収集等森林療法プログラムを試行します。身近な里山で科学的なデータが検証できれば里山整備の一つの方向性が提示でき青年、高齢者の健康づくりに活用され将来医療、介護費用軽減に役立つと考えます。

NPO法人水と森と人とIN神崎



（条例更新にむけて）

森林、林業基本法においても森林を守り育てていくため、国民的取り組みが必要とし、県も「みんなで育てるちばの森林」が基本理念となっている。雪国ではブナ、ナラの実がなくなっているという。千葉でも木々の病気が進んでいる。

今後社会、文化が熟成するにつれ大企業は独自の環境財団をもち、中小の企業も環境支援に参加すると考える。

ボランティア団体も意識、技術の確立、認定NPOの検討等の実現を目標とし里山条例も2回3回と更新となれば世代交代が可能となり全国に誇れる森づくりとなろう。

新たなニーズに向けて

豊富どんぐりの森 鈴木恵子

里山活動を始めてから5年目を迎えました。当初は、産業廃棄物の撤去や掃除で大変でした。森林はアズマネササと葛に被われ、作業をしても先の見えないことばかりで、楽しむ余裕はありません。毎回、整備に追われていました。5ヘクタールもある森をどのようにしていいか見当も付かず、無我夢中でした。ただ何か不思議な可能性だけがあることは感じていた。

現に少し無理な伐採もしたし、計画性のない作業をしていた点もありました。そんな中、何か森からの声が聞こえてくる気がしました。

3年目の冬、隣接している森の1部が道路になり、側面が丸裸になり、風貌がすっかり変化してしまっただ。騒ぐのは人間だけで、森は静かに見守ってくれていた気がしました。

当初は近隣の学校や地域の環境美化活動のためだと思っていたが、最近では新たなニーズがあります。

ちばコープ、ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、生活クラブ生活共同組合からの森林講座の実践の場として要望がありました。

学校関係では、船橋市立三咲小学校、千葉工業大学から生徒の実習の場として依頼があります。

その他、福祉専門学校の生徒からは、郊外学習の単位として作業日に参加する学生が多くなってきた。中高年にはキノコの観察会に人気があり、50名を超える参加者があります。自然環境・エコライフに関心が高い方が多く、森林への関心が少しずつ高まった証拠でしょうか。これからも様々なニーズに答えながら整備は続けていくことでしょう。

昨年、森の側面全てに柵を作りました。伐採した丸太を使用して一年がかりで柵を完成させました。不揃いの丸太が外部からの進入拒んでいる様な気がしています。森を整備しながら森に教えられ作業をしています。森の中では、思わぬことで事故が起きる可能性があります。

自分が怪我をしないのはもちろんですが、他人を事故に巻き込まない、自分も事故に巻き込まれない



ようにするには、周囲の状況を把握しておくのが重要なことです。作業に夢中になり安全確認を忘れることもあります。今回あげた安全のポイントは、みんなで作業する際の基本的なことで、ほんの一部です。

他にも危険なものはたくさんあります。夏の日射病、熱射病、暑さ、寒さ、かぶれ、ハチ、ヘビ、などなど。積極的に話し合いの場をつくり、楽しい活動を続けていきましょう！

編集後記

来月から新年度に入りますが、ちば里山センターの事務局メンバーが変わる予定です。平成16年9月発足以来、精力的にこの団体の運営をしてきましたHさんSさんご苦労様でした。今年度は里山情報バンク、ボランティアサポートシッププログラム、新たなボランティア保険の開発など良い仕組みづくりが出来たと思っています。今後これらがうまくいくように頑張りたいと思います。(た)